

# 豊富な実績と知見をもとに`生涯で再発しない手術、を追求



病診連携を行う「道庁前クリニック」

複数の急性期医療に対応した「札幌白石記念病院」で、心臓血管外科の陣頭指揮を執る道井洋吏院長。40年以上のキャリアで手掛けた手術件数は、5000例以上（2024年現在）。特に近年実績を上げ

「道庁前クリニック」とも連携し、利便性の向上と環境整備にも努めている。

## 道井 洋吏 院長

どい・ひろさと / 1985年札幌医科大学卒業。北海道大野病院（院長）、札幌心臓血管クリニック（院長）などを経て、2023年8月札幌白石記念病院（副理事長）に就任。24年4月から院長。心臓血管外科専門医認定機構の心臓血管外科専門医修練指導責任者としても活躍。

社会医療法人医翔会

札幌白石記念病院

札幌市白石区本通8丁目南1-10

☎011-863-5151 <https://www.ssn-hp.jp/>



ているのが、難病指定の閉塞性肥大型心筋症に対する「心筋切除術」だ。

手術は侵襲が大きく、閉塞の度合いや場所を的確に把握する必要があるため、難易度が高い。

そのため、道井院長は術前の心臓MRIの検査結果をもとに、手術プランを考案し安全性の向上に注力。これまでに200例以上を執刀しており、本症例に関する学会発表や後進への指導も行っている。

また、手術に対する独自のポリシーを掲げている。「低侵襲手術でも再発すれば意味がない。人生100年時代の現代において、多少の負担があっても、生涯で再発しない手術」になるなら、それは患者にとつて最適な選択と考えています

一方、昨年開院した系列の「道庁前クリニック」とも連携し、利便性の向上と環境整備にも努めている。

# 不整脈に新たな術式を導入。医療水準の底上げにも全力

## 宮本 憲次郎 代理院長

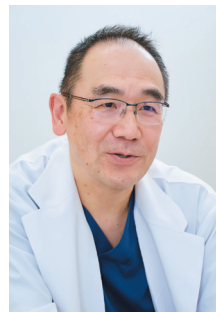
みやもと・けんじろう / 1992年札幌医科大学卒業。手稲漢仁会病院（循環器科医長）、札幌心臓血管クリニック（副院長）を経て、2016年札幌白石記念病院に勤務。24年から現職。日本循環器学会認定循環器専門医。

社会医療法人医翔会

札幌白石記念病院

札幌市白石区本通8丁目南1-10

☎011-863-5151 <https://www.ssn-hp.jp/>



造を立体的に表示して、カテーテルの位置などを正確に把握。原因となる異常部位を特定することで、手術精度を向上させている。

また、昨年11月からは新たな術式「パルスフィールドアブレーション（PFA）」を導入した。

「従来の治療法は、熱を用いて心筋組織を焼灼するため、横隔神経や食道などに損傷を与えるリスクがわずかながらありました。一方、PFAは電気パルスで心筋細胞に微小な穴を生じさせる治療法で、合併症の発生活リスクを低減できます」

一方、研究や技術研鑽にも注力。道内各地の医療機関でのデモンストレーションや勉強会などを開催している。

「道内における不整脈領域の医療水準の底上げを図っていききたい。そのため、そのための労力は惜しみません」



急性期医療を担う「札幌白石記念病院」